

2016 年度

**日本ビジネス実務学会北海道ブロック
研究会報告書(要旨集)**

I . 講演会

II . 研究発表

III . 第 13 回学生プレゼンテーションコンテスト

平成 28 年度北海道ブロック研究会報告書発行にあたって

国内外の出来事に驚き考えさせられる日々ですが、今年も年度末を迎える季節になりました。

会員の皆さまのご協力により、今年度の活動報告集をとりまとめることができましたので、活動の軌跡としてご高覧いただければ幸いです。

本年度は、7月2日に総会と講演会を開催しました。昨年度の株式会社セイコーマート代表取締役社長丸谷智保様に引き続き、生活協同組合コープさっぽろ専務理事中島則裕様にご講演を賜りました。北海道という地域をテーマの一つとしてビジネスの現状認識や研修などについてお話しいただき、研究活動の視野を広げることと、学会研究会の認知、会員勧誘を目的とした継続事業です。

ご講演には昨年同様に会員に加え学生や地域の方々も加わり、経営方針や社員教育、また、北海道経済や産業の将来について大変有意義なお話をうかがうことができました。

恒例の学生プレゼンテーション・コンテストは12月23日に北海商科大学で開催し、4大学10チームが参加しました。応援や見学の学生との質問や意見などもあり充実したイベントとなりました。ご協力頂いた北海道ブロック研究会の皆さまには改めて感謝申し上げます。

ブロック研究会は2月25日に北海商科大学で開催できました。様々な事情ご都合つかない方が多く出席者は11名となりましたが、3本の研究発表と発表終了後の意見交換と懇親会はいつものように和やかに楽しい時間を共有できました。

さて、私事ですが

2期4年のブロックリーダーの任を無事終えることができそうです。これもひとえに皆様方のご協力と励ましのお陰と感謝申し上げます。これまでの活動を振り返り、課題点を改善しながら新年度はさらに充実した活動が展開されまことを期待しています。

学生を社会に送り出す側の義務として、働くことと生きることの価値を繰り返し伝え続けることの大切さを感じながら、時として言葉の伝わらないもどかしさを味わっています。デジタル社会は人間そのものさえも変えて来ているのだと思いますが、本ブロックがこれからも働くことの意義と価値、そのための学生育成と課題の分析等に寄与する方策を提供し続けることを願っています。

会員の皆様には、引き続きご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 29 年 3 月 31 日
北海道ブロックリーダー
武井 昭也

もくじ

巻頭言～北海道ブロックリーダー武井昭也

I. 講演会	1
コープさっぽろの取組 北海道のこれから 生活協同組合コープさっぽろ 専務理事 中島則裕氏	
II. 研究発表	8
①JAUCB 受託調査研究「産学連携コラボ」の実践に関する報告 ～実践内容と実践から得られたインプリケーションを中心に～ 関 憲治（札幌国際大学） 高橋秀幸（北海道武蔵女子短期大学） 千葉里美（札幌国際大学）	
②ホスピタリティに関する時事テーマの導入事例 『雇用の未来-コンピューター化によって仕事は失われるのか』 論文を学生はどのようにとらえたか 加藤由紀子（北海商科大学）	
③研修プログラム開発の提案－保育者養成を足がかりに 武井昭也（札幌国際大学）	
III. 第13回学生プレゼンテーションコンテスト	22

講演会のご案内 参加無料

「コープさっぽろの取り組み、北海道のこれから」
生活協同組合コープさっぽろ専務理事 中島 則裕 氏



日本ビジネス実務学会へのお誘い

ビジネス実務の研究対象領域【1】ビジネス実務の教育
開発研究 1) ビジネス実務プログラム開発と教材開発
プログラム ●コミュニケーション能力 ●プレゼンテーション能力
●リーダーシップ ●コーディネーション能力 2) 授業方法の
研究 ●マルチメディア環境の利用 ●参加型授業の展開 ●
知識習得のための新しい講義法 ●体験学習とその評価 ●
インターンシップの効果的活用【2】ビジネス実務の調査・
研究

生活協同組合コープさっぽろ

私たちの生活に大変なじみの深い「コープさっぽろ」趣意書には 1844 年イギリスのロッヂデール開拓者組合から世界協同組合連盟 (I.C.A) に結集し、日本全国に展開していること、その理念「ゆりかごから墓場まで」「よりよい生活と平和のために」「一人は万人のために、万人は一人のために」のもと札幌に生活協同組合を設立することが掲げられてあります。

職員が仕事と子育てを両立して働きやすい職場環境づくりに努力されており、多くの社会活動やさまざまな環境活動にも取り組まれていることも広く認知されていると存じます。また、「子育てひろば」、「ふれあいサロン」、一時預かり保育「トドックルーム」、2015 年札幌市認可保育園となった事業所内保育園 aurinko (アウリンコ) を運営しています。

中島様は 1982 (昭和 57) 年に入協され、多くの部署をご経験されたのち、2001 (平成 13) 年に本部長、現在は専務理事としてその手腕を発揮されております。

講演会では、コープさっぽろのさまざまな取り組みとその哲学、そして北海道や札幌のこれからについて、中島様からお話をうかがいます。

学会会員以外の方の多数のご来場をお待ち申し上げます。

2016 年 7 月 2 日 10:30~12:00

清田区清田 4 条 1 丁目 4-1 札幌国際大学 2 号館大講堂 【創風】



主催：日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会

004-8602 札幌市清田区清田 4 条 1 丁目 4-1 札幌国際大学内

011-881-6416 | a-takei@ts.siu.ac.jp | <http://jsabs.hs.plala.or.jp>

平成 28 年度日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会 プログラム

会 場：北海商科大学 3 階【301】
(豊平区豊平 6 条 6 丁目 / 地下鉄東豊線「学園前」4 番出口直結)

(敬称略)

平成 29 (2017) 年 2 月 25 日 (土)	
13:30～	受 付 3 階【301】前 (参加費 2000 円)
研究発表・報告 (発表 20 分、質疑応答 10 分)	
14:05～14:35	JAUCB 受託調査研究「産学連携コラボ」の実践に関する報告 ～実践内容と実践から得られたインプリケーションを中心に～ 関 憲治(札幌国際大学) 高橋秀幸(北海道武蔵女子短期大学) 千葉里美(札幌国際大学)
14:40～15:10	ホスピタリティに関する時事テーマの導入事例 『雇用の未来-コンピューター化によって仕事は失われるのか』論文を学生はどのようにとらえたか 加藤由紀子(北海商科大学)
15:15～15:45	研修プログラム開発の提案-保育者養成を足がかりに 武井昭也 (札幌国際大学)
休 憩	
16:00～17:00	フリー・ディスカッション (情報交換) 学会のこれから、ビジネス実務教育やキャリア教育、キャリア支援の状況、その他
移 動	
18:00～20:00	懇親会 「ヤマタケ水産食堂」中央区北 2 条西 3 丁目 1-26 札幌第一ビル TEL011-211-1196 (加藤で予約してあります。会費 3500 円)

2016 日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会

研究発表要旨

発表タイトル	JAUCB 受託研究調査「産学連携コラボ」の実践に関する報告 ～実践内容と実践から得られたインプリケーションを中心に～
氏名（所属）	関 憲治（札幌国際大学）
共同研究者 氏名（所属）	高橋秀幸（北海道武蔵女子短期大学） 千葉里美（札幌国際大学）
要 旨	<p>一般財団法人全国大学実務教育協会（JAUCB）から日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会が受託した「産学連携コラボ」の実践（「若手社員と学生コラボチームによる業務課題解決プロジェクト」）について、その活動経緯（実施体制等を含む）を説明した上で、実践内容の紹介と実践から得られたインプリケーションを報告した。なお、この受託研究の最終的な目的は、各大学で、その目的に応じて効果的、かつ、学生主体の「企業等と連携した業務課題解決プロジェクト」を実施できるようになるための課題等を提示し、その解決方策を検討することである。</p> <p>今回紹介した実践は、札幌国際大学（関ゼミ）、北海道武蔵女子短期大学（高橋ゼミ）、札幌国際大学（千葉ゼミ）で行われた企業等と連携したプロジェクト活動である。これらの活動を行うにあたって留意した点は、教員が枠組みを作って学生は実施するだけというものではなく、あくまでも学生主体の活動とすることである。ともすると教員は、一見して整った成果を求めてしまうため、自らがプロジェクトリーダーの役割を果たしてしまい、学生は教員の指示どおりに動くだけという状態になりがちであるが、今回はあくまでも学生主体の活動を心がけた。</p> <p>これらの実践から得られたインプリケーションとして、①企業側の狙い（メリット）と大学側の狙い（学生教育）に生じがちな乖離を極力少なくしていく必要があること、②学生が興味を持つテーマが企業にとっての課題とは限らないためプロジェクト課題の設定は慎重に行う必要があること、③今回は学生と（若手）社員の意見交換会等によりテーマを決めて活動を行ったが、企業主導でテーマを決めて実践し、そのプロセスの中で学生が目線で業務課題を発見していく形が望ましい場合もあること、④企業と連携した活動の途上で、予算策定時点では想定していなかった支出が発生しがちなため、予算の自由度の高さが求められること、などを報告した。</p>

JAUCB受託研究調査「産学連携コラボ」の 実践に関する報告 ～実践内容と実践から得られたインプリ ケーションを中心に～

関 憲治(札幌国際大学)
高橋秀幸(北海道武蔵女子短期大学)
千葉里美(札幌国際大学)

受託研究の内容

- プロジェクト名
「若手社員と学生コラボチームによる業務課題解決プロジェクト」
- 事業内容
若手社員と学生との産学コラボチームにより、若手社員が抱える業務課題を解決することを目的として、学生の情報収集、調査、分析をもとに協働で課題を検討し、問題解決の方策を見出す。この取組のプロセスで若手社員と学生の問題解決能力を育成すると同時に学生と産業界の接続に寄与する。具体的には、若手社員と学生による産学コラボチームを編成し、そのチームにより意見交換会等を行った上で活動を行い、その成果を発表する。

2

実施体制

日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会総会(2015年7月4日開催)でプロジェクトメンバーを募った。

- チーム代表
関憲治(札幌国際大学)
- メンバー
石田麻英子(札幌国際大学短期大学部)、牛嶋和夫(札幌国際大学)、加藤由紀子(北海商科大学)、小林純(札幌国際大学短期大学部)、澤田隆(北海道文教大学)、高橋秀幸(北海道武蔵女子短期大学)、千葉里美(札幌国際大学)、森谷一経(北海道文教大学)、和田佳子(札幌大谷大学)
- オブザーバー
椿明美(札幌国際大学短期大学部)

3

JAUCBからの留意事項

- 教員が枠組みを作って学生は実施するだけというのではなく、あくまでも**学生主体の活動**とすること(JAUCBからの留意事項)を確認した。
 - ⇒ 教員がプロジェクトリーダーではない。
 - ⇒ 学生を「やった気にさせる」ことが目的ではない。
 - ⇒ 一見して(表面的に)きれいに完成された成果を求めるものではない。(実践を通して学生の学びが深まれば、活動自体は結果的に未完成でも失敗しても構わない。)

4

今回の受託研究の位置づけ

- 最終的には、各大学が独自に(予算、実施体制等を含めて)ゼミや授業等で、その目的に応じて効果的、かつ、学生主体の「企業等と連携した業務課題解決プロジェクト」を実施できるようになることが目的である。
- 今回の受託研究における実践を通して、目的に応じて効果的、かつ、学生主体の「企業等と連携した業務課題解決プロジェクト」を実施できるようになるための課題等を提示することが必要である。

5

プロジェクトメンバーによる意見交換・検討(1)

- 企業に活動趣旨、内容を理解していただくのが難しいのではないかと。多くの企業に大学からインターンシップや産学連携等の申し出がある中で、一部の企業では大学に不信感を抱いているように感じる。
- 大企業に依頼しても難しいのではないかと。結局、どこの企業に依頼するかが、ポイントである。教員がすでに経営陣と関係を築いている中小企業が望ましいのではないかと。

6

プロジェクトメンバーによる意見交換・検討(2)

- 企業側のメリットは、若手社員の育成であろう。多くの中小企業では毎年新入社員を採用するとは限らないが、そのような企業では若手社員に後輩育成の機会が少ない。後輩を育成する中で若手社員は成長していくので、今回の実践は若手社員の育成という点から企業側にメリットがあるだろう。それを企業側が理解してくれれば、依頼を受け入れていただけるのではないかと。
- ゼミ活動や授業の一環として行わないと、学生のモチベーションが維持できないのではないかと。

意見交換の結果、原則として各大学が独自に連携先企業を開拓・選定し、活動を行うこととした。

7

連携先企業等

- 株式会社ヒューマンインプリック様(人材派遣・紹介業)
～札幌国際大学と連携～
- 株式会社JALナビア様(航空券予約受付・案内および販売等)
～北海道武蔵女子短期大学と連携～
- 四季ニセコ様(ホテル型コンドミニアム)
～北海道武蔵女子短期大学と連携～
- 上士幌町商工観光課様(観光協会と兼務)
～札幌国際大学と連携～
- 大丸株式会社様(オフィス用品等卸売業)
～札幌国際大学短期大学部と連携～

8

活動内容の紹介(1)

- 株式会社ヒューマンインプリンク様との連携プロジェクト
～金融就職セミナーの企画・運営～

同社は人材紹介、派遣業を営んでいる。ただし、新卒者(大学生)向けのサービスはこれまで提供してこなかった。

地域金融機関から若手職員定着のために就職活動前に金融機関の実際の仕事について知っておいてほしいとの声があったことから、大学3年生(札幌国際大学 関ゼミ5名)と連携したプロジェクト(金融就職セミナーの企画・運営)を実施することとなった。

学生と企業と意見交換を行った結果、学生が興味を持っている広告・宣伝、集客の視点から提案等を行い、セミナーの運営サポートを実施することとなった。

セミナー終了後に同社に対して次年度に向けた提案を行った。

9

活動内容の紹介(2)

- 株式会社JALナビア様との連携プロジェクト
～株式会社JALナビアと考える女性の働きやすい職場とは～

北海道武蔵女子短期大学 高橋専門ゼミナール(2年生19名)は、同社と連携して「女性が働くこと」をテーマとした課題解決学習を実践した。具体的には、女性の働き方に関する全体課題(個人課題)に対する提案を行った。さらに、主に意見交換を行う中で明らかになった以下の3つの課題(グループ課題)に対して、学生たちがグループに分かれ、調査研究し、解決策の提案を行った。

- ・シフト勤務なので、生活が崩れ体調を崩しがち。また、決まった時間に眠れない。
- ・英語スキルのベースアップについて
- ・年上の後輩との関わり方が難しい。

10

活動内容の紹介(3)

- 四季ニセコ様との連携プロジェクト
～社員の方や企業全体が抱える課題への提案～

北海道武蔵女子短期大学 高橋教養ゼミナール(1年生17名)は、同社(若手社員)と連携して社員の方や企業全体が抱える課題への提案を実践した。

提案を行ったテーマは、「若者を集めるにはどうしたらよいか」「日本人の雇用、顧客を増やす」である。なお、これらのテーマは事前に提示された課題の中から、学生が現地調査等を行う中で選択・設定したものである。

11

活動内容の紹介(4)

- 上士幌町商工観光課様との連携プロジェクト
～上士幌町の更なる体験観光促進と魅力あふれる観光パンフレット内容の検討～

札幌国際大学 千葉ゼミ(3年生5名)は上士幌町商工観光課の若手職員、地域おこし協力隊員と共に、夏・冬の年2回開催予定の地域体験イベントの造成とチラシ作製から始まり、最終的には通年型パンフレット作製に向けた学生なりの提案プロジェクトに取り組んだ。

プロジェクトの実践にあたり、学生たちは何度となく現地に赴いて現地調査を繰り返し、最終的には上士幌町でプレゼンテーションを実施した。

12

実践を通じて得られたインプリケーション

- 連携先企業の開拓
 - ⇒ 企業の狙いと大学の狙いに乖離が発生しやすいのではないか。
 - ⇒ 趣旨を丁寧に説明し、乖離をいかに小さくするかがポイントではないか。
(そもそも、「若手社員の業務課題の解決」という設定は理解しにくかったように思われる。)
- プロジェクトの規模(参加学生の人数を含む)
 - ⇒ 導入当初はゼミでの活動が望ましいのではないか。
 - ⇒ 広く授業として実施する場合には、定型化する部分が必要ではないか。
もしくは、段階的な導入が必要ではないか。

13

実践を通じて得られたインプリケーション

- ゼミや授業の目的との整合性
 - ⇒ ゼミや授業の目的との整合性は学生のモチベーションにも大きくかわるので、連携先企業の選定の際によく検討する必要があるのではないか。
- プロジェクト課題の設定
 - ⇒ 学生が興味を持つテーマが企業にとっての課題とは限らず、学生・企業の双方にとって望ましいプロジェクト課題の設定は、想像以上に難しいのではないか。
 - ⇒ 企業主導でテーマを決めて実践し、そのプロセスの中で学生の目線で業務課題を発見していく形を取らざるを得ない場合もあるのではないか。

14

実践を通じて得られたインプリケーション

- 柔軟な予算
 - ⇒ 今回の受託研究では予算科目の自由度が高かったため不自由は感じなかったが、大学独自で行う場合には、予算上の自由度の高さが必要となるのではないか。(企業との活動の途上で、予算策定時点では想定していなかった支出が発生しがちである。)
- 教員の負担
 - ⇒ (開始前から想定されていたことではあるが、)課題解決型の授業等では、想定外のことも多く教員の負担は相応に大きい。特に授業等で広く実施していく場合には、大学側の理解が必要ではないか。

15

2016 日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会

研究発表要旨

発表タイトル	<p>ホスピタリティに関する時事テーマの導入事例</p> <p>『雇用の未来-コンピューター化によって仕事は失われるのか』</p> <p>論文を学生はどのようにとらえたか</p>
氏名 (所属)	加藤 由紀子 (北海商科大学)
共同研究者	
要 旨	<p>「雇用の未来 コンピューター化によって仕事は失われるか (オズボーン・フレイ 2013)」では、米国で 10～20 年程度のうちに自動化される可能性が高い仕事は全体の 47%あること、運送や物流に関連する仕事は大半が消滅すること、また、サービス業の労働者も大幅に減ること、そして、今後労働市場で生き残っていくためには、高い creativity と social skill が必要と結論づけられている。この後、野村総合研究所とオズボーンらとの共同研究により、日本国内の 601 種類の職業について、同様に試算し、その結果が 2015 年にリリースされた。</p> <p>そこで、本学の観光学Ⅱ (ホスピタリティ概論) の講義で、それを利用して、自動化される確率を試算した結果を学生たちと共有し、その結果を話し合わせた。まず学生を 5 つのグループに分け、最初に「人工知能やロボット等による代替可能性が高い 100 種の職業」のリストを渡し、なぜ代替されるのかを導き出して発表させた。次に、逆に「人工知能やロボット等による代替可能性が低い職業」を考えさせ、その理由も発表させた。</p> <p>授業終了後に振り返りシートを提出させたが、日本の仕事の約半数が自動化されることに驚き、本当にそうかと批判的に考えている学生もいた。また、真剣に考えなくてはと気づいた学生が多かったことが、この授業での一番の収穫であったと考える。</p> <p>話し合いなどをモニターしていて気がついたことは、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人工知能やロボット等による代替可能性を非現実的にとらえたのではなく、むしろ肯定的にとらえている。 ②サービス業でも自動化が進むことに対しては、なにかよそ事のようにとらえられている。 ③実情に対しては、自分の仕事として身近に落とし込んで考えるのは難しい。 ④オズボーンが指摘した「クリエイティブ」「ソーシャルスキル」については言及がなかった。 <p>このように色々な形で学生と共有していくことが今後の展開に役に立つと考える。</p>

ホスピタリティに関する時事テーマの導入事例

『雇用の未来-コンピューター化によって仕事は失われるのか』

論文を学生はどのようにとらえたか

加藤 由紀子（北海商科大学）

1. はじめに

「雇用の未来 コンピューター化によって仕事は失われるか」はオックスフォード大学准教授 M・オズボーン、オックスフォード大学フェロー C・フレイによって 2013 年に発表された論文である。(THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERISATION? Carl Benedikt Frey and Michael A. Osborne September 17, 2013)

この論文では、702 の職業について、コンピューターの進歩によって将来自動化される可能性（リスク）を分析しており、アメリカにおいて 10～20 年程度のうちに自動化される可能性が高い(70%以上) 仕事は全体の 47%あること、運送や物流に関連する仕事は大半が消滅すること、また、サービス業の労働者もサービスロボットの伸び率と相まって競争が大きくなこと、そして、今後労働市場で生き残っていくためには、高い creativity と social skills が必要と結論づけている。

論文の発表後、野村総合研究所とオズボーン准教授およびフレイとの共同研究により、日本国内の 601 種類の職業について、それぞれ人工知能やロボット等で代替される確率を試算し、その結果が 2015 年 12 月にリリースされた。それによると、日本の労働人口の 49%が人工知能やロボット等で代替可能であると試算されている。同リリースによると、代替可能性が高い職業は、IT 保守員、タクシー運転者、建設作業員、警備員、行政事務員、受付係、保険事務員、スーパー店員、自動車組立工、NC 旋盤工などで、代替可能性が低い職業は外科医、バーテンダー、放送ディレクター、経営コンサルタント、美容師、料理研究家、大学・短期大学教員、雑誌編集者、児童厚生員などである。

さらに、同研究での試算では、英国の 35%とアメリカの 47%より日本が高い数値であることも報告された。このことについてオズボーンは、野村総合研究所における対談で、この数字は直接比較できるものではなく、むしろこれらの 3 カ国で観察された傾向が非常に似ていることを指摘し、コンピューターに代替される可能性の高い労働人口も低い労働人口の割合はかなり大きいことが特徴だとしている。(Financial Information Technology focus2016-3)

これらの研究を機に、サービス産業の生産性や人工知能の可能性、機械化がもたらす課題などが各所で論議されてきている。

もともとこの研究は「機械学習」が専門であったオズボーンが、機械学習は雇用に影響を及ぼすことを、定量的に解析したもので、それによってこれまでは、人間でないとできないと思われていた仕事の多くがコンピューターの計算能力向上や人工知能が多くのかを扱うことができるということを示した功績は大きい。しかし、それだけでなく、オズボーンの論文の結論にある、今後労働市場で生き残っていくためには、高い creativity と social skills が必要であり、特に必要なのは、労働者が自動化される可能性の低い職業に転換できるよう、再教育に力を入れることを提言していることは、大き

な意味があると考える。

現在 AI とロボットは、凄まじい勢いで進化しており、囲碁ソフトがトップレベルのプロ囲碁棋士を打ち負かしたり、音声や画像の認識や車の自動運転といった高度な制御や判断を実現している。ロボットの機能も大きく変化しており、工場などで使用されているものだけでなく、人間とのより自然なコミュニケーションを実現し、日常生活や小売店の店舗などで「サービスロボット」として存在するようになった。

オズボーンの分析からは、秩序的・体系的な操作をする仕事や、特別な知識や技術が必須ではない仕事が自動化されやすく、反対に可能性が低いのは、抽象的な概念を整理し生み出す仕事や協調や説得などが必要な仕事だといわれている。さらに、オズボーンは、日本経済新聞の「人工知能は職を奪うか（経済教室）2016/01/12」で、自動化は日本の労働力不足を解消し、長期停滞からの脱出にも貢献すると考えられるとしている。しかし、日本では起業家精神が旺盛でなく、積極的に ICT に投資したり、新規参入・退出率が低いため、生産性の低下と新技術への投資不足を招いたこと。さらに長期雇用を保障しているため省力化技術の実現が進まなかったことや、日本の ICT 部門で長期間ソフトウェア技術者が不足していたことを挙げている。

そして、日本経済の再生のためには、新技術の導入を奨励する一方で、起業に有利な改革を実行することが欠かせないとし、必要なスキルを身につけられるかどうか、そして日本の起業家精神をよみがえらせて新規雇用を創出できるかどうかは、安倍首相の手腕にかかっていると結んでいる。

また、柳川範之（2016）は、同じく日本経済新聞の「人工知能は職を奪うか（経済教室）2016/01/13」で、「どのような仕事が AI に代替され、奪われてしまうかについては注意深い検討が欠かせない。」としたうえで、AI を活用しつつ、付加価値を追加する能力と、人間同士のコミュニケーション能力が重要になるとしている。そのためには、個人の意識改革と同時に、能力開発などの労働市場の整備が必要であるとして、また学校教育にも必要とされる能力を教育していくことが求められていくとしている。

2. 観光学Ⅱ（ホスピタリティ概論）への展開

本学では、観光産業学科の学生に観光学Ⅱを開講している。授業のねらいとしては、ホスピタリティの概念を学び、その特徴を分析しつつ、ホスピタリティのあり方について理解を深めることを目的としている。

本年度は、野村総合研究所のプレスリリースを利用して、人工知能やロボット等で代替される確率を試算した結果を学生たちと共有し、その結果を話し合わせた。

方法としては、まず学生を5つのグループに分け、最初に「人工知能やロボット等による代替可能性が高い100種の職業」のリストを渡し、なぜ代替されるのかを導き出して発表させた。次に、逆に「人工知能やロボット等による代替可能性が低い職業」を考えさせ、その理由を発表させた。

なぜ代替されるのかを導き出しについては、学生たちの話し合いによって決めさせたが、リストから職種などを特定して、そこから考える方法、自動化のメリット・デメリットから考える方法をアドバイスした。代替させるものの理由として多かったのは、人件費の削減や正確さやスピード、危険な作業時の安全性などである。（図表1）

また、「人工知能やロボット等による代替可能性が低い職業」については、対人サービスについての回答が多かった。対人サービスも、「へんなホテル」やサービスロボット「ペッパー」などで置き換わる話もしたが、やはり人とのふれ合いは自動化では置き換わらないと考えている学生が多かった。また芸術や芸能など彼らにとって「クリエイティブ」なものも見受けられたが、オズボーンのいう起業家までにいたらなかった。（図表2）

図表 1 「人工知能やロボット等による代替可能性が高い 100 種の職業」 なぜ代替されるのか

<p>1グループ</p> <p>①事務会計→正確でスピーディ</p> <p>②清掃→手間が省ける、感染防止</p> <p>③工場→安全、正確、便利、早い、薬品の取り扱い</p> <p>④接客→多彩な語学、クレーム対応(が少ない)</p> <p>⑤警備→安全、24時間対応</p> <p>なぜ代替されるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費削減 ・手間が省けて便利になる ・正確、精密 ・早い、速やかにできる ・デメリット・コストと普及に時間がかかる 	<p>3グループ</p> <p>なぜ代替されるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボット導入で ・人件費削減 ・同じ作業が多いため、効率が向上 ・ミスの削減 ・作業の正確さと早さ ・人へのリスク(事故や事件)が低い ・人工知能の導入で ・人間を超える能力の高さ ・計算や分析などの速さと正確さ ・人件費の削減 ・人へのリスク(事故や事件)が低い
<p>2グループ</p> <p>なぜ代替されるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボット導入で ・人件費削減 ・正確でスピード(早い) ・危険な作業 ・人工知能の導入で 臨機応変 24時間 ・デメリット <p>初期費用がかかる</p> <p>表情がない</p> <p>限界がある</p>	<p>4グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費の削減(人がいない)、 ・時間短縮 ・24時間時間をフルに使える ・一定のサービス、業務をこなせる ・安全確保 <p>5グループ(中国人留学生)</p> <p>複雑系</p> <p>流れ作業をライン化できる</p> <p>効率がアップできる</p> <p>人件費をさげる</p> <p>簡単系</p> <p>サービスに対しての要求が低い</p>

図表 2 「人工知能やロボット等による代替可能性が低い職業」

<p>1グループ</p> <p>①手作業でおこなう、農業や漁業、美容師、畜産業</p> <p>②技術・・・医師、芸術家、料理人、エステシャン</p> <p>③直接人とかかわる 教師、カウンセラー</p> <p>④その他 芸能人、政治家</p>	<p>4グループ</p> <p>車掌・スポーツ選手・警察官・医者・CA・操縦士</p> <p>PA・カメラマン・バーの店員・セラピスト・裁判官</p> <p>弁護士・検察官</p> <p>これらから、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の考えや意思、判断が臨機応変かつ <p>人それぞれに併せて対応しなければならないもの</p>
<p>2グループ</p> <p>①教育・・・保育士・教師・教授</p> <p>②技術者・・・美容師・医者。介護士</p> <p>③公務員・・・警察官・消防士</p> <p>④サービス業・・・ホテル・レストラン(飲食店)・営業</p> <p>⑤芸術・・・陶芸家・建築家・作家</p> <p>⑥その他・・・政治家・芸能人</p>	<p>5グループ(留学生)</p> <p>①人との交際が必要な銀行の窓口係、事務員</p> <p>②精密な作業・・・測量士、機械木工</p> <p>③臨機応変・・・タクシーやバスなどの運転者</p> <p>④技術開発・・・CADオペレーター</p>
<p>3グループ</p> <p>①ホテルなどサービス業</p> <p>②医療・福祉・メディカルケア</p> <p>③教育系</p> <p>④飲食系</p> <p>⑤運輸系(人を運ぶもの)</p> <p>⑥芸能関係</p> <p>⑦茶道や華道、陶芸などの伝統工芸など</p> <p>⑧消防・警察・自衛隊・海上保安官</p> <p>これらから、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨機応変に対応しなければならない仕事 ・人の命を預かる仕事 ・会話や人の心に関わる仕事 ・受け継がれていく文化や技術に関わる仕事 	

出所:各グループの表時を筆者が編集

3. 振り返りにみる学生の気づき

授業終了後に、振り返りシートを提出させたが、日本の仕事の約半数が自動化されることに驚き、また本当にそうかと批判的に考えている学生もいた。また、真剣に考えなくてはと気づいた学生が多かったことが、この授業での一番の収穫であったと考える。

しかし、話し合いなどをモニターしていて気がついたことは、「人工知能やロボット等による代替可能性」が非現実的にとらえたのではなく、むしろ肯定的にとらえていることである。ただし、ロボットについては、産業用のロボットのイメージが強く、人工知能搭載である程度のコミュニケーションがとれるまで開発が進んでいくことについては思い至らなかったため、サービス業でも自動化が進むことに対して、なにかよそ事のようにとらえられていた。また、銀行の窓口などすでに自動化されているものについては、学生たちがほとんどATMなどの自動化されているものを使っているため、窓口でどのような仕事をしているかもわからず、またあまり関心がないように見られた。全体的に、このように実情に対しては、かなり受け身であり、自分の仕事として、身近に落とし込んで考えるのは難しいところはまだあるようだ。

また、オズボーンが指摘した「クリエイティブ」「ソーシャルスキル」については言及がなかったもので、どこまでこの論文を学生たちが理解したかは難しいが、ソーシャルスキルについては、ある程度認識しているようにも考えられる。ただ、「クリエイティブ」に関しては、フロリダのクリエイティブクラスなど、オズボーンの意図した「クリエイティブ」は理解できないようにも思える。

今回は、学生の気づきを中心としたが、今後は色々な形で学生と共有していくことが今後の展開に役に立つと考える。

参考文献

《著者名（出版年）『書名』出版社名》

- Carl Benedikt Frey and Michael A. Osborne (2013) : THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERISATION? Oxford. (p 44)
- 野村総合研究所 金融 IT ナビゲーション推進部 (2016) : Financial Information Technology Focus2016-3) p 2-5
- オックスフォード大学准教授M・オズボーン、オックスフォード大学フェローC・フレイ:
人工知能は職を奪うか(上)(経済教室) 2016/01/12 日本経済新聞 朝刊 9 ページ
- 柳川範之東京大学教授:
人工知能は職を奪うか(下)(経済教室)2016/01/13 日本経済新聞 朝刊 27 ページ
- 水野操(2015) 『あと20年でなくなる50の仕事』青春出版社.
- トーマス・H・ダベンポート、ジュリア・カービー(山田美明訳)(2016)
『AI時代の勝者Hと敗者 機械に奪われる仕事、生き残る仕事』日経BP社

2016 日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会

研究発表要旨

発表タイトル	研修プログラム開発の方策－保育者養成を足がかりに
氏名（所属）	武井昭也（札幌国際大学）
共同研究者 氏名（所属）	
要 旨	<p>保育の現場では保育士不足や早期離職などの課題があり、現場の労働環境改善と保育者の専門性を高めるための研修の充実と同時に、保育現場の魅力を養成課程に在籍する学生にしっかりと感じさせながら専門職としての保育者を養成するという課題を認識せざるを得ない。</p> <p>この対策としてこれまで以上に緊密に現場と連携した保育者養成が必要だと考えるが、近年の学生はインターネットや携帯端末によるコミュニケーションに依存する生活が習慣化しており、自身の体験や困難に向き合い乗り越えるといった経験が少ないため、実社会での活動に不安感を持つ者が多い。このような学生に通り一遍のアドバイスではその不安を払拭し切れないのが実態である。そのため以下の具体的な支援を重視していくべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①保育現場の保育者による保育職の魅力を伝えるための場面づくり ②基本的な生活習慣やマナーを含めた「生きる力」のより具体的な再確認 ③実習以外の現場経験の場の設定 ④働くことの意義と就労に関する法的知識の確認 <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に象徴される保育制度の変更において、保育の質の向上が問われているが、保育者養成校において学生指導と卒業生の悩みに直面する中で、現職研修の深化が保育者の意識を高め、保育の質の向上につながることを、そして、そのような先輩の姿を目のあたりにして保育に関する学びを深めることが学生の不安と課題に応える方策だとの認識に至った。</p> <p>絵本に関する意識調査と環境状況調査、絵本の読み聞かせから子ども同士の遊びに展開する事例、特に感性を重視する事例を収集し、現職研修のプログラムに組み入れる提案した。</p> <p>研修プログラムに後輩学生へのコメント作成や後輩学生との意見交換の場を重視することが発表の中心である。</p>

研修プログラム開発の方策

—保育者養成を足がかりに

日本ビジネス実務学会
20170225北海道ブロック研究会発表
札幌国際大学 武井昭也

ブログ「保育園落ちた日本死ね!!!」

「なんなんだよ日本。一億総活躍社会じゃねーのかよ。昨日見事に保育園落ちたわ。どうすんだよ私活躍出来ねーじゃねーか」「子供を産んで子育てして社会に出て働いて税金納めてやると言ってるのに日本は何が不満なんだ？何が少子化だよクソ。子供産んだはいいけど希望通りに保育園に預けるのほぼ無理だからって言って子供産むやつなんかいいよ」

「不倫してもいいし賄賂受け取るのもどうでもいいから保育園増せよ。オリンピックで何百億円無駄に使ってんだよ。エンブレムとかどうでもいいから保育園作れよ。有名なデザイナーに払う金あるなら保育園作れよ。どうすんだよ会社やめなくちゃならねーだろ。ふざけんな日本」

「保育園増やせないなら児童手当20万にしろよ。保育園も増やせないし児童手当も数千円しか払えないけど少子化なんとかしたいんだよねーってそんなムシのいい話あるかよボケ。国が子供産ませないでどうすんだよ。金があれば子供産むってやつがゴマンといるんだから…国会議員を半分からいぐビにすりゃ財源作れるだろ。まじいい加減にしろ日本」(2016.2.15)

2

1. 問題の所在

- 1 保育の質の目標と何を法的に規制するかを決定する
- 2 1に応じカリキュラムとスタンダード(基準)を設定
実施する
- 3 組織としての園のあり方と保育者の資質および現職
教育研修の改善をはかる
- 4 保護者と地域の関与を促す
- 5 これらの観点のデータを収集研究し質のモニタリング
をする

3

2. 研修プログラム開発の背景

2-1 養成課程学生の意識と支援

- ① 保育現場の保育者による保育職の魅力を伝えるための場
面づくり
- ② 基本的な生活習慣やマナーを含めた「生きる力」のより具
体的な再確認
- ③ 実習以外の現場経験の場の設定
- ④ 働くことの意義と就労に関する法的知識の確認

4

2-2 絵本の読み聞かせに関する調査と感性重視の方向へ

5

3. 現職研修プログラム案

9:00	9:30	10:40	12:00	13:00	14:40	16:10
① 受付	② A 絵本紹介	③ B 読み聞かせ技法	昼食・休憩	④ C 展開事例紹介	⑤ D 参加型意見交換	⑥ 諸連絡

9:00	9:30	10:40	12:00	13:00	13:30	
① 受付	② E 地域の紹介	③ F 評価記入	昼食・休憩	④ G 後輩へ	⑤ 諸連絡	

6

5. 今後の課題

7

- 赤澤洋子 (2010) 『絵本の風—子どもとおとなの絵本100冊の魅力—』鶴岡タイムス
- 秋田喜代美 (2009) 「国際的に高まる『保育の質』への関心—長期的な縦断的研究の成果を背景に」
- http://berd.benesse.jp/berd/center/open/berd/backnumber/2008_16/tea_akita_01.html
- 秋田喜代美、佐川早季子 (2011) 「保育の質に関する縦断的研究の展望」東大大学院教育学研究科紀要、51、217-234
- 一般社団法人全国保育士養成協議会専門委員会『平成24年度専門委員会課題研究報告書「保育者の専門性についての調査」2013年
- 一般社団法人全国保育士養成協議会専門委員会『平成25年度専門委員会課題研究報告書「保育者の専門性についての調査第2報」2014年
- 河合隼雄、松居直、柳田国男 (2001) 『絵本の力』岩波書店
- この本だいすきの会、小松崎進、大西紀子 (2000) 『この絵本読んだら—子どもが喜ぶ絵本の読みがたり』高文研
- 小松崎進、増村王子 (1979) 『よみかせとおはなしの世界』労働教佐伯胖 (2007) 『共感—育ち合う保育のなかで—』ミネルヴァ書房
- 柴村紀代 (2012) 『どの本読もうかな355冊の絵本—読み聞かせ絵本の手引き—』札幌えほん研究会
- 仙台市図書館 (2016) 『あかちゃんときどき楽しむはじめての絵本〜0・1歳児向け〜』
- 谷川俊太郎文タイガー立石絵 (1986) 『ままですすきですすきです』福音館書店
- 仲本美央 (2015) 『絵本を読みあう活動のための保育者研修プログラムの開発—子どもの成長を促す相互作用の実現に向けて—』ミネルヴァ書房
- 長谷川摂子 (1988) 『子どもたちと絵本』福音館書店
- 古橋和夫 (1999) 『子どもへの絵本の読みかたり—読み聞かせから読み語りへ』明文書林
- 本田由紀 (2009) 『教育の職業的意義』ちくま新書
- Benesse次世代育成研究所 (2014) 『保育者研修進め方ガイド』2010(平成22)年度文部科学省委託「幼児教育の改善・充実調査研究」
- 埋橋玲子 (2007) 「言語能力育成についての就学前ナショナル・カリキュラム等の比較考察」四天王寺国際仏教大学紀要、44、237-260
- 松居直 (2004) 『絵本が育てる子どもの心』日本キリシタン教団出版局
- 村中季衣 (1998) 『読書療法から読みあいへ—[場]としての絵本』教育出版
- 山崎翠 (1986) 『子育てに絵本を』エイデル出版

8

日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会主催

第13回 学生プレゼンテーションコンテスト

日程：2016年12月23日（金・祝）

場所：北海商科大学



表彰	氏名	所属	タイトル	概要
優秀賞	蝦名 佑美 澤田 有李 中道 琴子	札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科 1年	水をまく ～地域活動か ら見えたもの ～	札幌大谷大学内の組織「まちけん」で企画・運営をしたクリスマスイベントでの経験をもとに「お店と地域をつなぐパイプ」「学生と地域が関わる意味」、を学んだ。また、思うような成果が出なくても、今回の活動から見えた新たな可能性という芽を出すことはできたので、自己満足のイベントで終わらせるのではなく長期的に継続していき、今回の視点を忘れずに時間をかけ大きな成果という花を咲かせていきたい。
優秀賞	近間 友紀	札幌国際大学 観光学部 観光ビジネス学科 3年	上士幌町観光 振興に向けた 新たな挑戦	上士幌町観光振興プロジェクトに参加し2年目の取り組み。タウシュベツカレーを販売した昨年の課題を生かし、体験観光の発掘・自然を伝えることに重点を置き、イベントを企画・運営。「上士幌町体験マルシェ」から見えた課題を自分なりに考察し冬のイベントの成功を目指す。今後については今まであった技術と最新の技術を掛け合わせて町の新しいパンフレットを作成し、上士幌町に携わっていきたい。
奨励賞 (入賞者以外の参加者全員) *発表順	片山 穂香 佐藤 美桜 小林 美奈	札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科 1年	高齢者の見守り活動を通して学んだこと	私たちは「大人のかくれんぼ」を東区で実施しました。「大人のかくれんぼ」とは実際に地域内で徘徊高齢者が出た場合を想定し、警察への通報、捜索、発見、保護までの一連の流れを模擬で行うというものです。この活動を通して私たちは多くのことを学び、課題を発見しました。この課題を解決するために「大人のかくれんぼ」を継続的に行っていきたいと考えております。

奨励賞	南原紗里奈 加藤 愛佳	札幌国際大学 観光学部 観光ビジネス学科 2年	イベントを通して見えた発見と成長 ーホテルとのコラボプロジェクトー	最初に、企業側（ホテル）から課題提示があり、私たちが解決しながら実践するという授業を経験しました。イベント実施に向けて現実性や可能性を考えて、企業からの厳しい問いにディスカッションを繰り返しました。イベントの告知から実践まで一通りを企業と共に運営する上で大切なのは利益を得ることです。しかし、収支の結果、支出の方が多かったことから、ビジネスの難しさや自分たちの考えの甘さを知ることが出来ました。
	鈴木龍之介	札幌国際大学 観光学部 観光ビジネス学科 2年	ストリートから社会へ ー趣味の発信と地域交流の促進ー	手品は自分の趣味でしたが、たくさんの人と好きなことで共有したり交流したいと思うようになりました。そこで実際に社会に出ると多くの誤解にぶつかりました。しかし、自ら発信し続けることが大切だという信念を持って趣味を発信する活動を続けた結果、地域の人に参加できるイベントを、ストリート仲間と一緒に実現することができました。これからも主催する私と参加してくれる皆さんにとって良い関係が築けるように発信し続けたいです。
	三浦麻理衣 近石 奈央	北海道武蔵女子短期大学 教養学科 2年	地域連携事業 産学連携コラボ実践 ーJALナビアと考える女性の働きやすい環境とはー	私たちは株式会社JALナビア様と社員の方の悩みを解決するグループ課題と全体課題に取り組んだ。グループ課題では人間関係に関する悩みなどに「仕事に関係ない話をする、自分から心を開く」という提案がされた。全体課題では「女性が結婚・出産をしても、働き続けてゆくには」という内容に「ランチ座談会や女子会を開く」など21通りの提案がされた。「柔軟な発想が良い、話しやすい雰囲気づくりが必要」などの意見をいただいた。
	平間啓太郎	札幌国際大学 スポーツ人間学部 スポーツビジネス学科 3年	企業と学生の 新規ビジネスへの挑戦 ～金融セミナーを通じて～	今回は、ゼミ活動の一環として課題解決型学習に取り組んだことについて報告しました。具体的には、主に転職者向けにサービスを提供している企業（A社様）と連携させていただき、金融機関を就職先として考えている大学生向けのセミナーを企画・運営しました。A社様にとって、大学生向けにサービスを提供することは初めての試みであったことから、現役の大学生である私たちが参加することとなったものです。積極性や社会的スキルの必要性を体験的に理解できました。
	沼田優太郎 長沼 勇希	北海道文教大学 外国語学部 国際言語学科 3年	日本教育改革 ～大人の義務教育制度の提案～	私たちは「大人の義務教育化」について提案しました。日本の教育について掘り下げて調べていく中で日本の学力は決して低いものではないということが分かりました。では、なぜ社会で教育という話題がなくならないのでしょうか。それは大人が子供に適切な教育をしていないからではないのでしょうか。そこで我々は「大人の義務教育化」を提案し、成人を再教育をすることで子どもに正しいことを伝えられると考えるに至りました。
	久保田 舞	札幌国際大学 観光学部 観光ビジネス学科 3年	今しかできない挑戦を ～"Yes"と言うことを恐れなくて～	大学生活に全くやりがいを感じなかった私だが、その考えをガラッと変える出来事が起こった。それは半年間の「国内留学」だった。留学先には、様々な国の留学生が学びに来ていた。彼らと共に過ごすことで彼らから「常にチャンスに対してアンテナを張る」「今しか出来ないことをやる」ということを身をもって学んだ。それからの毎日とはとても充実しており、これからはチャンスを見逃さないように過ごしていきたい。

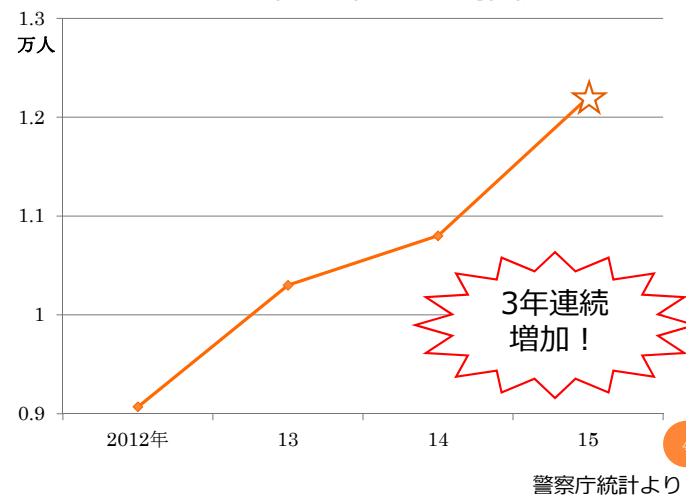
高齢者の 見守り活動を通して 学んだこと

平成28年12月23日(金)
札幌大谷大学社会学部地域社会学科1年
片山穂香、小林三奈、佐藤美桜

12208

徘徊

認知症の行方不明者の推移



高齢者の見守り・SOSネットワーク



5

住民

コミュニティ



安心、安全

6

徘徊高齢者等模擬搜索訓練

大人の
かくれんぼ

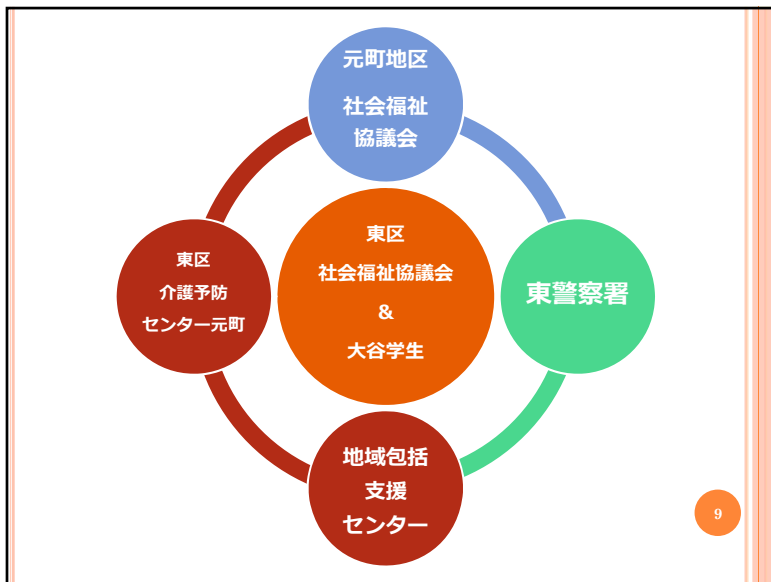
7

おじいちゃんがいなくなっちゃった！

模擬



8



おどなのかくれんぼ！
認知高齢者等模倣捜索訓練

10月29日(土) 10:00~12:30
受付開始 9:40~

開催場所: 元村公園会館
札幌市東区北10条東1丁目1-25
(TEL. 761-7335)

参加費: 無料

※定員50名(先着順)
主催: 社会福祉法人 札幌市東区社会福祉協議会
協力: 認知包括支援センター
東区介護予防センター元町

参加者募集中!

徘徊する高齢者を探そう!!!

10



協力

分担・共有

印象

12

広域での実施

取り組みやすい体制

13

訓練
振り返り

内容整理

マニュアル制作

広める

- SOSネットワークのホームページ掲載
- 各町内会配布

14

2017年
美唄で開催決定

15

ご清聴
ありがとうございました

16

水をまく

～地域活動から見たもの～

札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科
蝦名佑美 澤田有李 中道琴子

1

セレスタ札幌について

まちなかキャンパスの提案



2015年に「セレスタ札幌」となり、
セレスタ札幌2階に札幌大谷大学キャンパス開室



地域交流活動を開始

▶ 2

前回までのクリスマスイベントは…



▶ 3

イベントの目的

- ①リピーターを増やす
- ②幅広い年齢層を取り入れる
- ③SC光星を知ってもらう

▶ 4



パイプのために

○お店の人と学生で話し合う
SC光星未来会議を定期的開催

○お店の人に協力してもらい、
参加型イベントを新しく企画

「光星サンタの知恵袋」

お店の人が講師になり、
プロならではの知識を教えるミニ講座

クリスマスプレゼントというしかけ



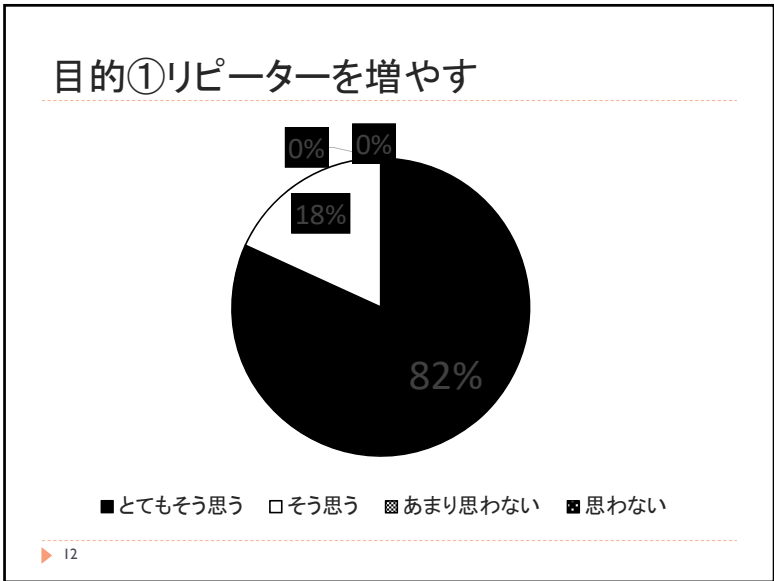
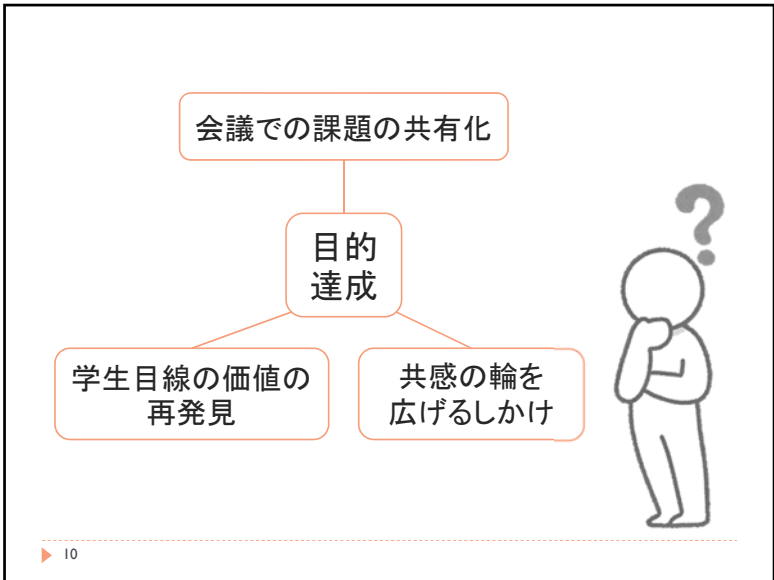
セレストラ札幌

おしえたがり サンタ

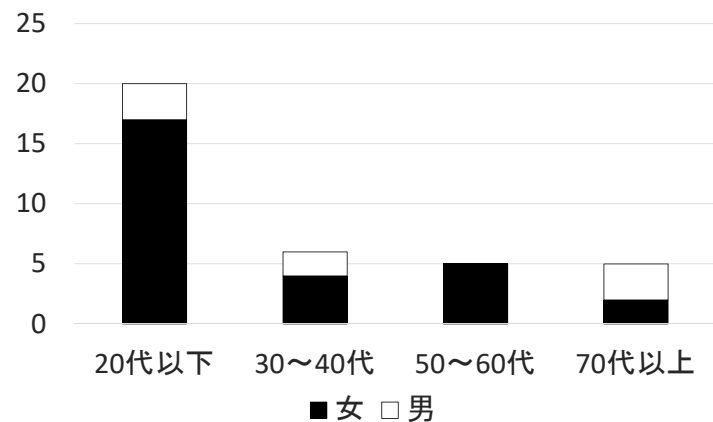
12月17日(土)
12:00~15:00

- 光星サンタの知恵袋
 - 光星の学生企業家と話をしよう！
 - 私生活やプロの生活などミニ講座です。
 - 光星卒業生も参加してくれるかも！
- 光星サンタの知恵袋
 - 光星の学生企業家と話をしよう！
 - 私生活やプロの生活などミニ講座です。
 - 光星卒業生も参加してくれるかも！
- ガラパン
 - 12/18-12/17
 - 12:00-15:00
 - 観覧料各席1000円以上
 - チケットは各席1000円以上
 - 光星ストア札幌 全席対象
- 大谷学生コンサート
 - オープニング 12:00-12:30
 - フィナーレ 14:30-15:00
- キッズコーナーでクリスマスカードを作ろう！
 - 大谷大学のみんなと一緒にクリスマスカードを作っちゃおう！

E.E.E.S.T.A. 光星ストア

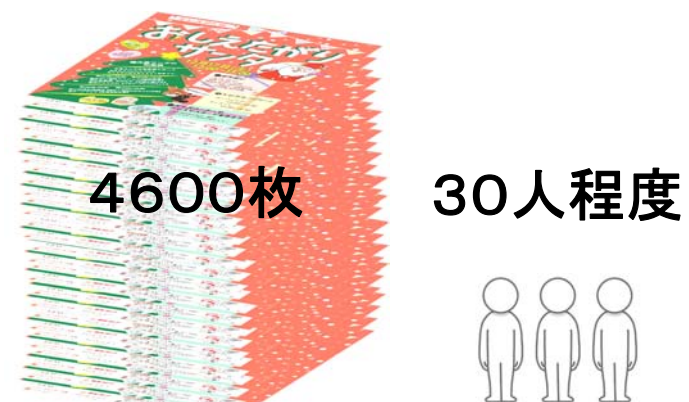


目的②幅広い年齢層を取り入れる



▶ 13

目的③SC光星を知ってもらう



▶ 14

「別の視点で考えることができた」

「定期的に集まれてよかった」

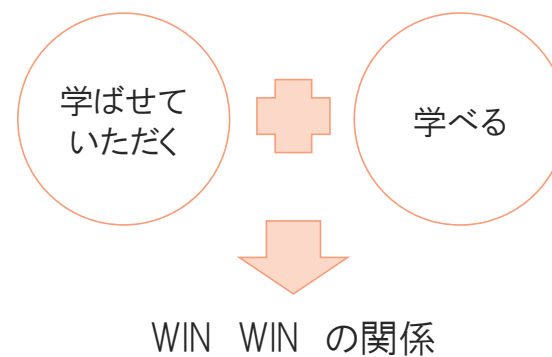
「私たちが主体のイベントができたのはよかった」

「チャレンジだった」

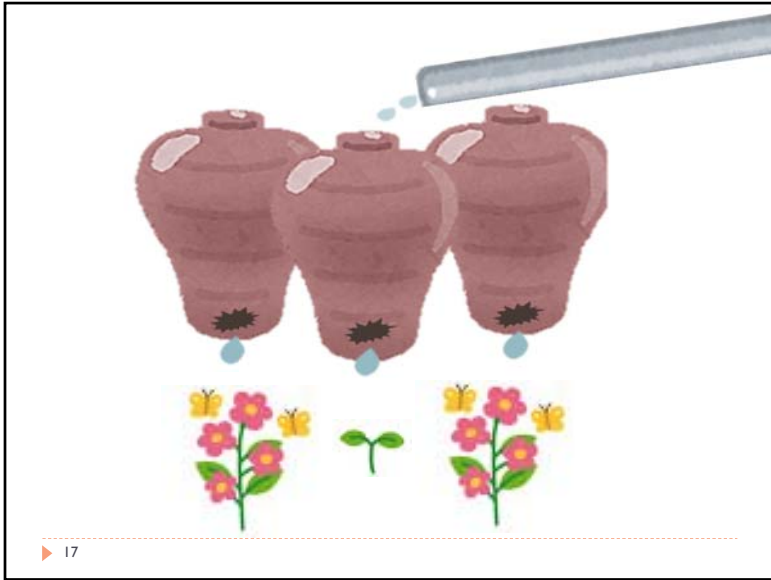
「継続してよりよくしていきたい」

▶ 15

学生と地域がかかわる意味



▶ 16



**イベントを通して見えた発見と成長
—ホテルとのコラボプロジェクト—**

札幌国際大学 観光学部
南原紗里奈
加藤愛佳

観光ビジネス論を受講したきっかけ

実際にホテルでの仕事ができ、
自らがイベントを企画立案し運営を行える。

↓

宿泊業への魅力を感じ、興味を高められる。
社会人基礎力が将来役に立つ。

2

授業の現場はクロスホテル札幌

コンセプト
「エンターテイメント」「情報」「シーン」「人々」がスタイリッシュに行き交う交差点

- ◎サービスの価値
スタッフ
料理
- ◎情報の価値
CROSS_met.(パンフレット)
CROSS_met.radio
- ◎コンテンツの価値
アイズヒルズホテル
サッポロ・シティ・ジャズ

事前学習

クロスホテルズ株式会社
エグゼクティブ プロデューサー 南部 修一 様

・現在の北海道・札幌の観光現状についての理解
・期待度に対し満足度が下回っている

さらなる満足度の向上が必要！

期待度 7% 満足度 11%

訪日外国人の北海道への期待度と満足度

クロスホテル側からの課題提示



6月4日(土)にリブランドオープンしたホテルレストランや
異文化交流イベント「クロスカフェ」に対し、

- ①認知関心を高める
- ②札幌在住外国人のコミュニティの場にする
- ③若い世代へ興味を持ってもらう



クロスカフェイベント企画立案

- 企画1 外国人を中心に日本文化の体験
- 企画2 ヨサコイソーラン部を巻き込んだ参加型演舞
- 企画3 札幌在住の外国人に対する食文化の提供
- 企画4 若者に向けて割引券の配布



イベントテーマ



協同プロジェクト
～学生の手による一日限定ホテルイベント～
『クロス縁日』

日時:2016年8月20日(土)

時間:16:00～21:00

場所:クロスホテル札幌前庭特設会場
(クロスカフェ開催期間中に実施)



クロスカフェイベント当日までの準備

- 準備1 外国人を中心に日本文化を体験
→風車作成・看板作成・景品準備
- 準備2 ヨサコイソーラン部を巻き込んだ参加型演舞
→演舞参加・振りつけ指導の依頼
- 準備3 在日外国人に対する食文化の提供
→おつまみプレートの立案・pop作成
- 準備4 8月20日イベント開催のPR活動(集客行動)
→SNS・ラジオ・チラシ・ポスター・
クーポン配布・フォトプロップス



本番へ向けて現場インターンの実施



- ・立地条件が良い
- ・値段が高いため若者の利用が少ない
- ・曲などの装飾による雰囲気作り
- ・出店の配置

また、来たいと思えるイベントにすることが必要！！

9

イベント当日の催し①

・緑日～ヨーヨー釣り、射的、おみくじ

射的には景品としてペア宿泊券やランチ無料券を用意。



・よさこい演舞

札幌国際大学のヨサコイソーラン部が出演、迫力のある演舞を披露



イベント当日の催し②

・おつまみプレート

当日50食限定、700円で販売。商品紹介ポップで分かりやすく説明。



・フォトプロップス

フレームをデザインし、ホテルに置いてPR。SNSでの宣伝活動にもチャレンジ。

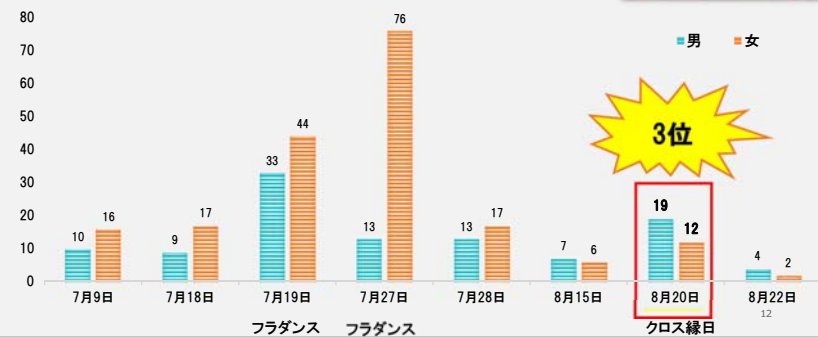


11

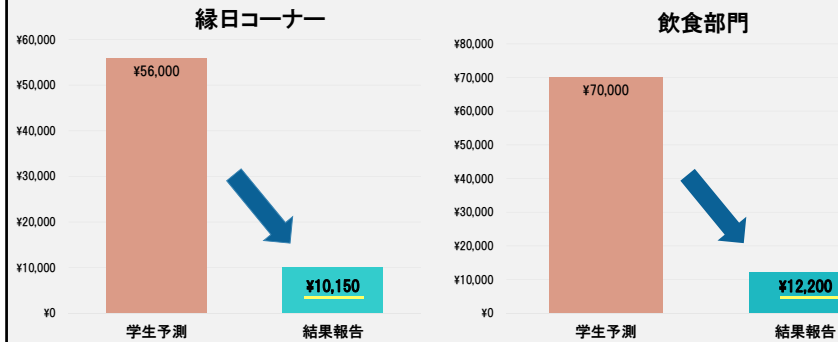
クロスカフェ 7～8月開催



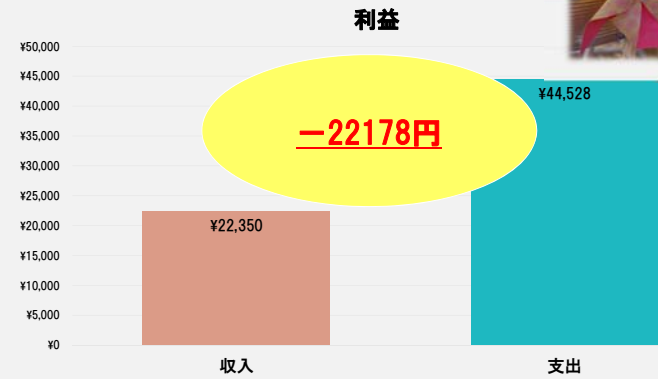
雨天時来店客数



収支報告（収入予測と現実の差）



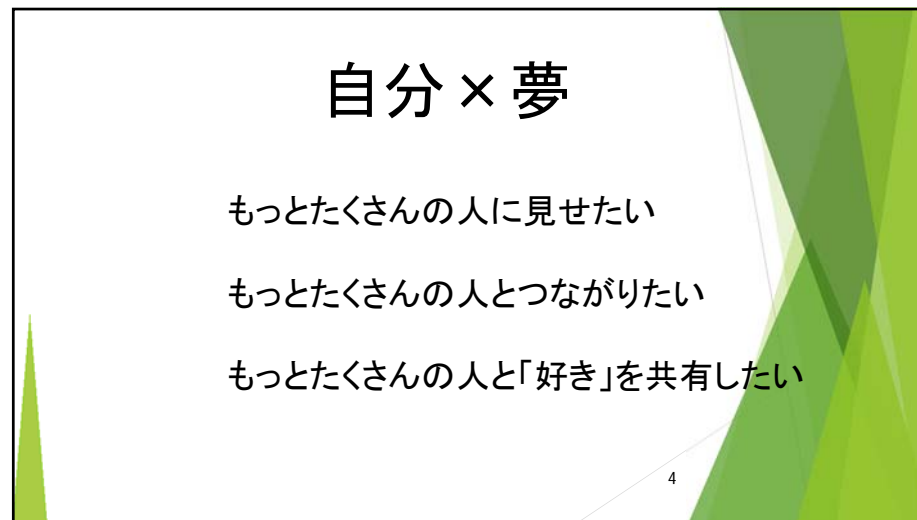
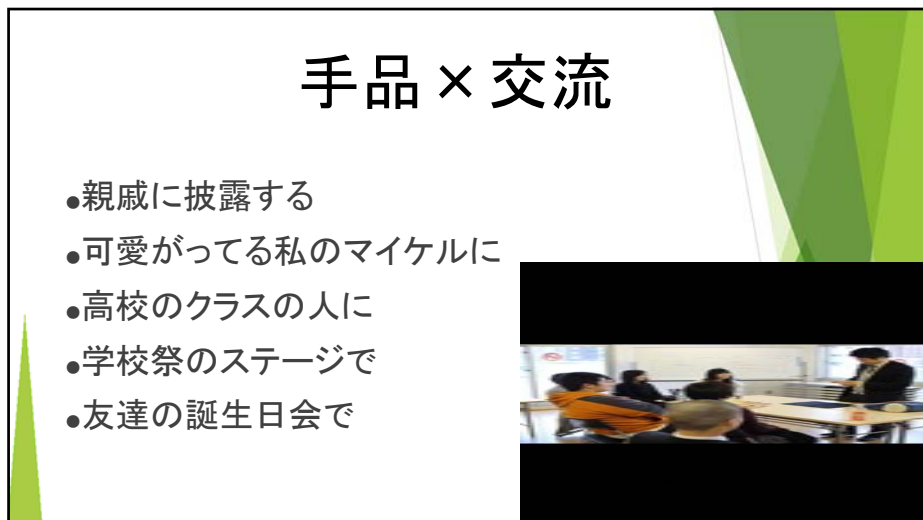
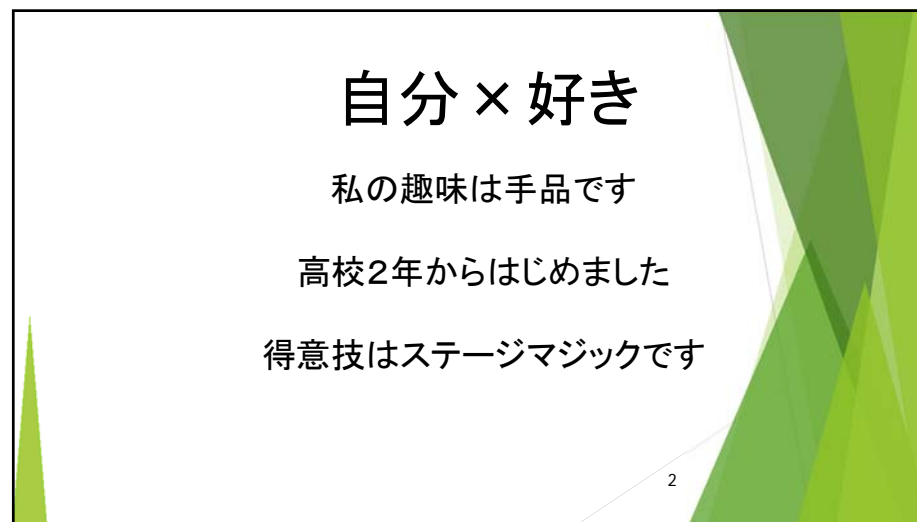
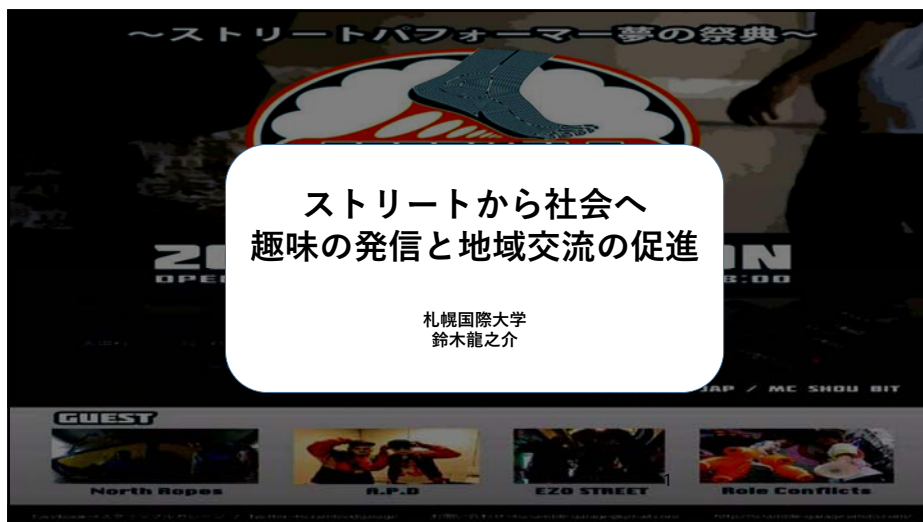
収支報告（大幅な赤字）



課題解決方法と身に付いた能力

課題	解決策	行動	身についた能力
課題1 認知関心を高める	宣伝活動をする必要がある	ラジオ・チラシ・ポスター・クーポン・フォトプロップス	コミュニケーション能力 働きかけ方 発信力
課題2 札幌在住外国人へのコミュニティの場を作る	地元の懐かしさと日暮らしを味わってもらう	おつまみプレート 縁日	課題発見力 計画力 創造力
課題3 若い世代の人に興味を持ってもらう	イベントとクロスホテルに足を運んでもらう	宿泊無料券 ランチ無料券 クーポンの配布	働きかけ方 計画力 創造力





狸小路×パフォーマンス



詩人

マジック

ジャグリング

あまりよく思われない

- ▶ パフォーマンス中に道具が飛んできて危ない
- ▶ 人が多い時は道が邪魔になる
- ▶ 騒音のため迷惑
- ▶ なんとなくマナーが悪そう

6

自分×思い

幅広い方々と交流ができる

色んな人の意見を聞いたりコミュニケーションをとることが出来る

本来路上での活動は禁止されている

未成年ということもあり世間体や社会からの風当たりが強い


7

もっとたくさんの人と交流しつつ
しっかりとした舞台で披露できないか

8

パフォーマーが声をかけて集まりました

9



イベント「スクランブルガレージ」

ストリートパフォーマンス夢の祭典～

日時 7月20日14時～18時
場所 エルプラザ
内容 普段、路上で活動しているパフォーマーたちがステージ上で競いお客さんに勝敗を決めてもらう
ジャンル ブレイクダンス・ジャグリング・フリースタイルバスケットボール
ダブルダッチ・マジック・パントマイム・フリースタイルサッカー

新聞にも掲載されました

路上でやっている時は社会的な風当たりも強かったが、掲載して頂くことにより自分達の活動が認められる気持ちにもなりました



当日の様子

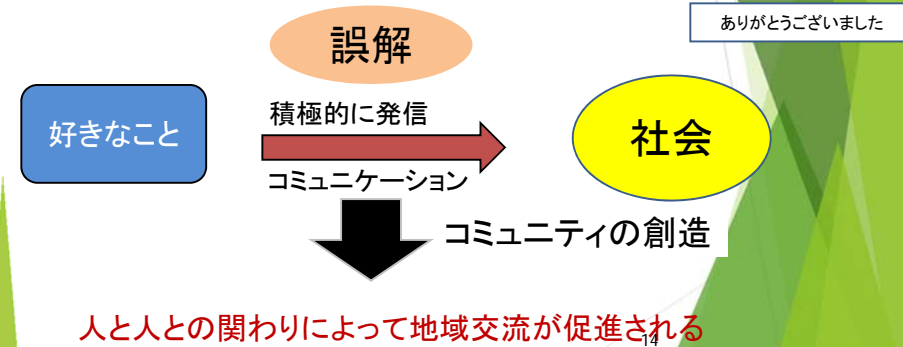


手品 × 運営

- 好きなことを自己満足のためにやるのは簡単だが人と共有するのは難しい
- イベントを自分たちが行うのは自由度は高いがしっかりと需要にあわせなければいけない
- 社会に認められなければいけない

13

好きなこと × 社会



地域連携事業 産学連携コラボ実践
～JALナビアと考える女性の働き
 やすい環境とは～



北海道武蔵女子短期大学
 教養学科
 三浦 麻里衣、近石 奈央

目次



- はじめに
- グループ課題と全体課題
- グループ課題 (A) (B) (C)
- 全体課題
- フィードバック
- 感想

はじめに

- 日本ビジネス実務学会の地域連携事業を行うため、昨年株式会社JALナビア様をゼミ生18名で訪問し、そこで**全社員の9割が女性**だということがわかりました。
- 本学も女性が多いため株式会社JALナビア様と共同で研究を進めることにいたしました。

グループ課題と全体課題

- 訪問をして、3人の社会人の方からそれぞれ課題(悩み)をもらった
- ↓
- (A) シフト勤務のため、生活が崩れ体調を崩しがちになってしまう
 - (B) 英語スキルのベースアップ・苦手意識の改善
 - (C) 年上の後輩との関わり方が難しい。どのようにしたら良い信頼関係を築けるのか。
- グループ課題
- 女性の働き方に関する 全体課題

Aグループ 課題：生活の改善

相談者の悩み

- シフト勤務のため、生活が崩れ体調を崩しがちになってしまう



決まった時間に眠ることができない

家に帰ってご飯を作る元気がない
レトルト食品やカップ麺に頼ってしまい、結果的に太る
栄養バランスが崩れる

悩みに対する提案



- 睡眠
 - スマホを触らない
 - 食事
 - 作り置きをして、小分けにして冷凍保存をする
 - 運動
 - 腰をひねるストレッチや肩甲骨を動かしてみる
- 自分の生活習慣を見直すきっかけにも

Bグループ 課題：英語学習

相談者の悩み

- 英語スキルのベースアップがしたい
- 英語に対する苦手意識の改善



少ない時間で英語を効率よく学ぶ
勉強時間の確保
英語が苦手な人でも学びやすく

悩みに対する提案



- 休憩・通勤時間などのスキマ時間を有効に使い、話す・聞く機会を増やす
 - 朝の「今日のセンテンス」・外国人講師を雇う etc...)
- 意欲的に英語を学ぶ
 - 英語学習スタンプカード、英検の受験料免除・補助 etc...

Cグループ 課題：人間関係

相談者の悩み

年上の後輩との関わり方が難しい。
どのようにしたら良い信頼関係を築けるのか。

- 職場には年上の後輩がいるが、なかなか馴染むことができない
- 上手く仕事をやっていくにはどのように接するべきか

Cグループ 調査方法



アンケート

- 本学学生50名へアンケートを実施
- 年上の後輩・年下の先輩がいる人を対象にその人とどのように関わっているか、調査

心理学・秘書学の専門家へインタビュー

- 年上の後輩との信頼関係の築き方についてインタビューを行った

- 「年上の後輩がいる」と答えた人・・・44%
- 例えば・・・話しやすい雰囲気を作るために自分から話しかける（EX.カーテンの柄）等
- 年齢に関係なく尊重しあう、自分から心を開く
- 言葉は時には誤解を生んでしまうこともある。配慮や思いやりを忘れずに、言葉の重みを理解し表現に気をつける

全体課題



課題

女性が結婚・出産をしても、働き続けてゆける環境を目指すには、どのような工夫をしていけばよいか

提案

- すでに産休や育児休暇を取得している社員とまだ取得していない女性社員などで集まり、ランチ座談会や女子会を開く
- 事業所内保育施設の設置

企業の方からのフィードバック

□よかった点

- 「学生ならではの柔軟な発想でよかった」
- 「前向きで新しいアイデアをいただいた」
- 「明るくハキハキした挨拶と発表に好感を持てた」
- 「共感できる発表ばかりで今回の提案が採用されないかと期待しています」

企業の方からのフィードバック

□改善が必要な点



- 「遅刻してきた学生がいた」
→ 5分前行動、下調べ
- 「私語が多かった」
→ 普段の雰囲気とは違うという意識を持つべき
- 「もっと話しやすい雰囲気作りができればよかった」
→ 私たちが年下だからこそその積極性の大切さ

コラボ実践を行ってみて



- 実際に子育てをしながら正社員でバリバリ働く女性を見た。女性の働き方を考えてみて、私も育児休暇制度を利用し、働きながら子育てをしたいと感じた。
- 当たり前でできなければいけなかった部分で企業の皆様を不快にさせてしまった。マナーや常識を社会に出る前にもう一度見直したい。

企業と学生の 新規ビジネスへの挑戦

～金融セミナーを通じて～

1

今回の発表にあたって

- 今回の発表は、ゼミ活動の一環として、課題解決型学習に取り組んだ内容の報告である。
- 具体的には、ある企業(H社)と連携し、新規ビジネスに取り組んだ。
なお、H社は、主に転職者向けのサービスを行っている企業である。

2

挑戦の発端

- 金融の知識をほとんど持たずに金融系の企業に入る人が多く、すぐ辞めていく傾向があるので、今回連携した企業(H社)では、金融機関に適した人材の発掘を目的としたセミナーを開催しようとしていた。
- 札幌では、同様のセミナーを開催しているところがなかったこと。
- 将来的な学生向けの新卒就職支援ビジネスを検討している企業(H社)と、来年度就職を控えている学生の業種研究の思考が一致したこと。

3

今回の活動内容

- 今回連携した企業と顔合わせ・今回挑戦したビジネスの詳細説明
- 集客方法の検討・広告、宣伝
- 金融セミナーの当日の運営
- セミナー終了後、次回セミナー開催にあたっての課題と改善策の提案

4

協力した企業と顔合わせ・打ち合わせ

今回協力していただいたH社様と金融セミナーの運営方法や集客方法について話し合っている様子。

・新卒就職支援を検討している企業に対して学生が求めるセミナーの意見を率直に発言させていただいた。



5

集客方法の検討・広告、宣伝

金融セミナーにどのような方法で学生を集客させるかを自分達なりに意見を出し合っている様子。

- ⇒ ・ポスター内容変更の提案
- ・ポスターの設置場所
- ・金融志望の強い大学への告知



6

金融セミナーの当日

会場設営と運営を行いながら、金融セミナーに参加した学生と合同で金融業界の講座を受けている様子。

銀行員OB2名の方をお招きし、講演していただきました。



7

次回セミナー開催への課題と改善策の提案

- 集客の提案
 - ⇒ セミナーの具体的な説明不足、告知の方法を改める
- 広告の提案
 - ⇒ チラシの完成時期をセミナーの開催半年前に行う
- 当日の提案
 - ⇒ プロジェクターなどの会場設営の事前準備

8

この活動を通して学んだこと

- 実績のない新規ビジネスの集客・広告の難しさ
⇒顧客(学生)のニーズを把握することが必要。
- 積極性の大切さ
⇒自分の考えを分かりやすく相手に伝えることが重要。
- 社会人としてのスキル
⇒社会人としての考え方・発言や行動力を身に付けることの重要性。

9

ご清聴ありがとうございました。

10

日本教育改革 ～大人の義務教育制度の提案～

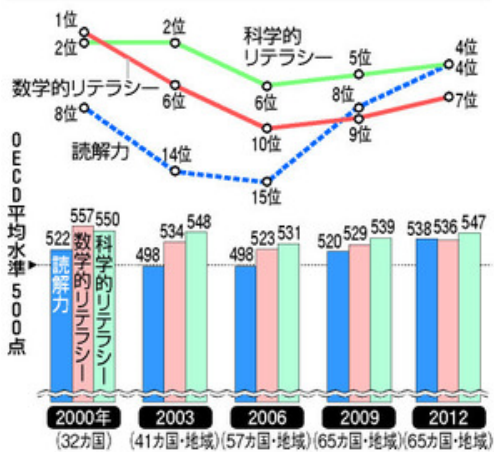
北海道文教大学
長沼 勇希
沼田 優太郎

日本全分野で学力低下 数学10位、上位層減る

OECD 15歳調査

読解力	数学的応用力	科学的応用力
1位 韓国 566	1位 韓国 548	1位 フランス 563
2位 フランス 547	2位 フランス 548	2位 韓国 542
3位 香港 536	3位 香港 547	3位 カナダ 534
4位 カナダ 527	4位 韓国 547	4位 台湾 532
5位 ニュージーランド 521	5位 オランダ 531	5位 エスニア 531
6位 アイルランド 517	6位 スイス 530	6位 日本 531
7位 オーストラリア 513	7位 カタラ 527	7位 ニュージーランド 526
8位 中国 510	8位 オース 525	8位 オーストラリア 527
9位 ボーランド 508	9位 中国 525	9位 オランダ 525
10位 スウェーデン 507	10位 日本 523	10位 ニュージーランド 523
11位 日本 498		

日本の成績の変化



文科相が総合学習見直し発言

ゆとり教育7割評価せず

学力低下不安

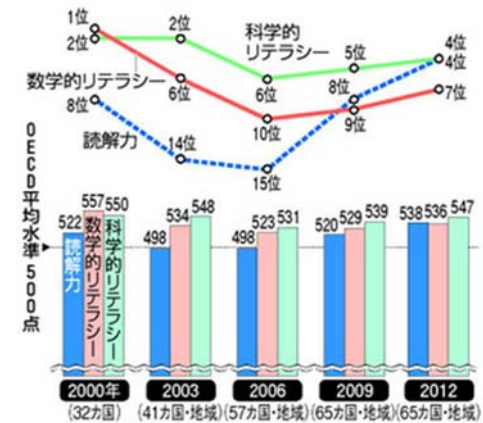
授業時間増加を検討

ゆとり教育の主な年間授業科目数 (単位)

科目	2000年	2003年	2006年	2009年	2012年
国語	72	114	114	114	114
算数	80	150	150	150	150
理科	215	150	150	150	150
社会	215	150	150	150	150
総合学習	0	70	70	70	70
英語	0	0	0	0	0
音楽	0	0	0	0	0
美術	0	0	0	0	0
体育	0	0	0	0	0
保健	0	0	0	0	0
道徳	0	0	0	0	0
外国語	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	502	544	544	544	544

指導要領の改訂
ゆとり教育廃止

日本の成績の変化



何に問題があるのか。

いじめで飛び降り強要
3人以下中2男子骨折
埼玉

埼玉県草加市立中学校で4月、中学年の男子生徒13人が同級生4人に強要され、校舎1階と2階の間をひしから約3メートル飛び降り、腰と胸を骨折する重傷を負ったことが20日、市教育委員会への取材で分かった。現在も自宅療養中で登校していない。

市教委は生徒への聞き取りやアンケートから飛び降り前にいじめがあったと判断。強要した4人を含む同級生4人が関与したとみている。

「強要した生徒や同級生2人は4月18日午前2時の事情を聴き、事実関係の確認を進めている。草加市の中学校で記者会見した校長(55)は「このように事態を防ぐことができず、申し訳ない」と謝罪。生徒の親は「入学金を返せ」と言われ、一人からは罰金を取られたという。

生徒はかどの痛みを訴え、病院に搬送。4月1日に別の病院で骨折が判明し、入院した。

自殺者件数

- 全国は554人(19歳未満)
- 北海道は38人(学生・生徒)

文部科学省平成27年度データ

9



10

不登校者件数

- 小中学生合計 112,689人
- 高校生合計 3,359,424人

文部科学省平成24年度データ

11

内面
INSIDE

12

原因はどこにあるのか。

13

私たち大人では？

14

なぜ、いじめがおきてしまうのか。

15

なぜ、不登校児がこんなにも多いのか

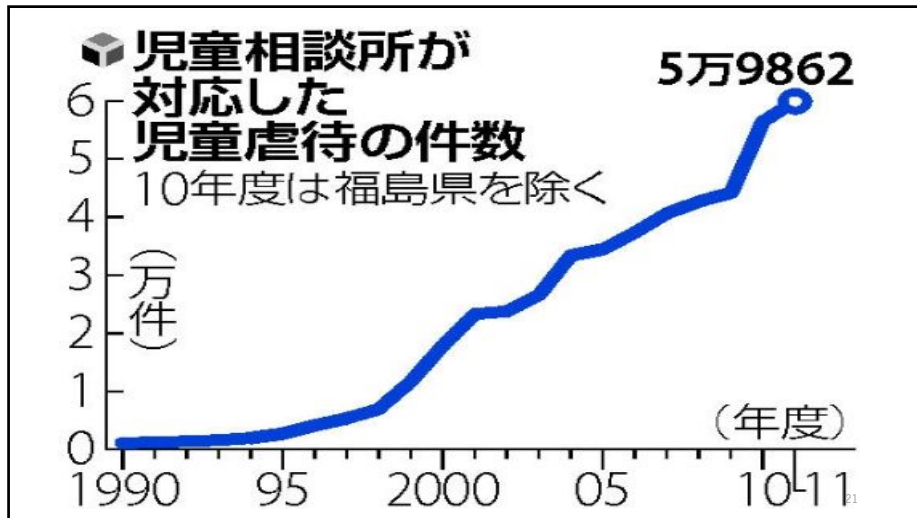
16

なぜ、命をすてるものがあるのか。



○むしろ、今、子どもたちの行動に対して指摘される問題点の多くは、大人たちの問題でもあるのではないか。子どもたちが、将来大人となる際の手本となるべき今の大人が、手本となり得ていないという大人社会の問題が、子どもに投影されているのではないだろうか。例えば、他人のことを思いやらず、自分さえ良ければといった言動や、責任感の欠如した言動、真摯に努力することを軽視するといった言動は、今の大人が行っているものであり、そうした大人に起因する問題が、子どもの問題と受けとめられているからこそ、問題の解決に至らないのではないか。





大人の義務教育化

22

義務教育化

- 半年に1回 (2日間1日3時間) 就職している20歳~60歳
 - 国・数・社・理・英・道
- ※道徳に力をいれる

23

大人の道徳心が養われる

大人の基礎学力が向上

家庭教育がほどこされる

24

大人が変われば子供も変わる

25

日本の未来を支えるのは今の大人ではない今の子供達。

26



27

参考文献

- matome.naver.jp
- mdsweb.jp
- mext.go.jp
- ameblo.jp

28



2 | こんなことやってきました！

- 大学2・3年生

観光振興局主催 学生観光プランコンペティション 上位5組
インターンシップ（沖縄かりゆしホテル）
国内留学（沖縄 名桜大学）
定山溪バリアフリー調査
第2回 観光振興局主催 学生観光プランコンペティション 優秀賞
じゃらんさんとのプロジェクト（旅プロデュース部）

3 | 最初は・・・

- 大学一年生の頃の脳内メーカー（再現）

毎日同じことの繰り返し・・・
つまらない・・・

早く卒業したい

4 | 最初は・・・

- 大学一年生の頃の脳内メーカー（再現）

毎日同じことの繰り返し・・・
つまらない・・・

沖縄への国内留学

5 | 沖縄への国内留学



31108_logo_kitei.pdf

6 | 沖縄への国内留学

チャンスは必ずものにしようと努力する



31108_logo_kitei.pdf

7



8

今しか出来ない事



9 | 沖縄留学から学んだ3つの事

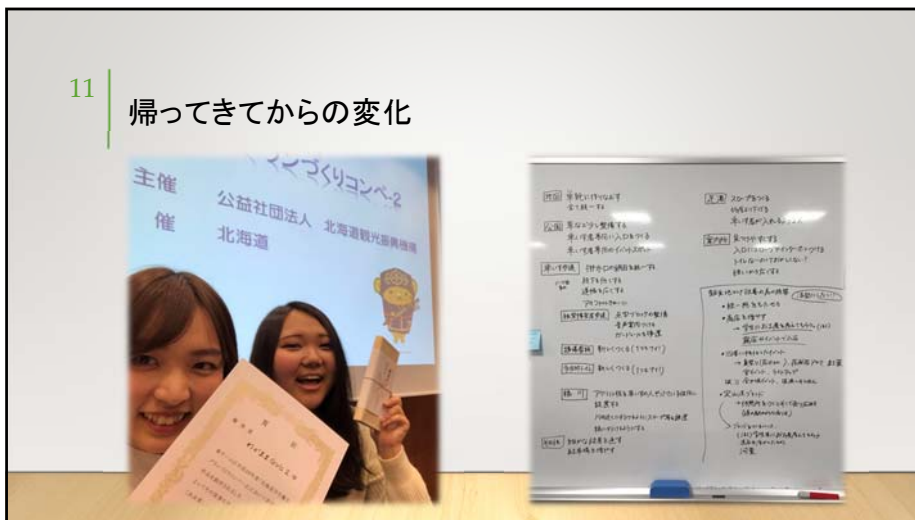
- 1.自分でチャンスを得るために常にアンテナを張る
- 2.‘NO’と言わない
- 3.今しか出来ないことをやる

10 | 沖縄留学から学んだ3つの事

- 1.自分でチャンスを得るために常にアンテナを張る
- 2.‘NO’と言わない
- 3.今しか出来ないことをやる

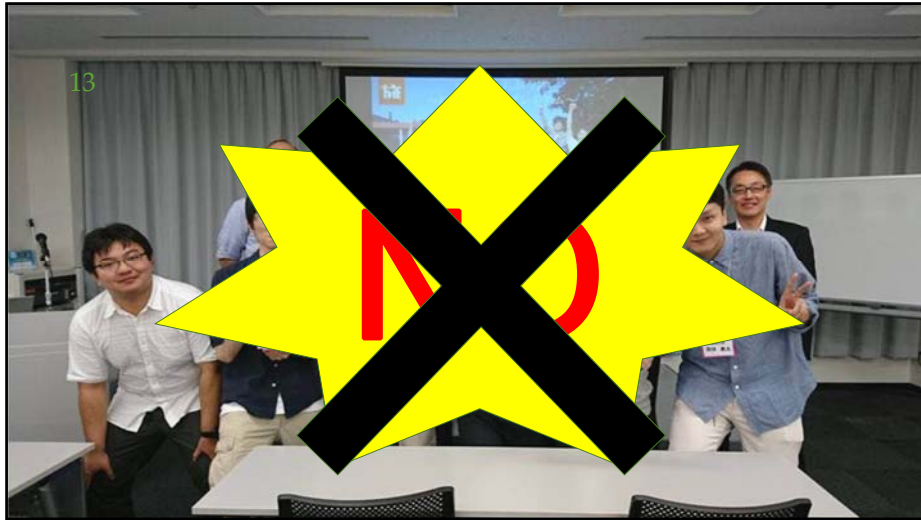


11 | 帰ってきてからの変化



12





15

さあ、大学生のみなさん
「今しか出来ないこと」に
挑戦してみませんか？





上士幌町

帯広から北に38km
札幌からは約210km
面積 約700km²
人口 約5000人

出典:上士幌町HPより引用

2



課題の発見

■ 因子得点(平均点)一性別・年代別・訪問回数別

	(N)	スポーツ・アウトドア派	景観派	地元料理派	高原牧場派
全体	140	0.00	0.00	0.00	0.00
男性	71	0.10	-0.13	-0.13	-0.26
女性	69	-0.10	0.13	0.14	0.27
10代	23	0.03	-0.22	0.04	-0.08
20代	23	0.23	-0.34	-0.05	0.27
30代	26	0.17	0.02	-0.06	-0.01
40代	35	-0.06	0.23	0.01	-0.09
50代	17	-0.34	0.10	-0.12	0.09
60代	11	0.01	0.10	0.36	0.01
70代以上	5	-0.54	0.31	-0.04	-0.50
はじめて	58	0.14	-0.06	0.05	0.15
2回目	16	-0.20	-0.22	0.14	-0.19
3回目	11	-0.04	-0.18	-0.33	-0.18
4回目以上	52	-0.14	0.15	-0.07	-0.08

注1) 問2-1訪問回数「無回答」は集計から除外した

5

課題の発見

■ 因子得点(平均点)一性別・年代別・訪問回数別

	(N)	スポーツ・アウトドア派	景観派	地元料理派	高原牧場派
全体	140	0.00	0.00	0.00	0.00
男性	71	0.10	-0.13	-0.13	-0.26
女性	69	-0.10	0.13	0.14	0.27
10代	23	0.03	-0.22	0.04	-0.08
20代	23	0.23	-0.34	-0.05	0.27
30代	26	0.17	0.02	-0.06	-0.01
40代	35	-0.06	0.23	0.01	-0.09
50代	17	-0.34	0.10	-0.12	0.09
60代	11	0.01	0.10	0.36	0.01
70代以上	5	-0.54	0.31	-0.04	-0.50
はじめて	58	0.14	-0.06	0.05	0.15
2回目	16	-0.20	-0.22	0.14	-0.19
3回目	11	-0.04	-0.18	-0.33	-0.18
4回目以上	52	-0.14	0.15	-0.07	-0.08

自然を伝えることは難しい!!

注1) 問2-1訪問回数「無回答」は集計から除外した

6

上士幌町体験マルシェ

- ・ターゲットは子供連れの家族
- ・全てが体験メニュー
- ・町一面にイベント会場



7

企画会議



現地調査



実施調査



Myランタン作り

- ・用意されたキットを破けぬよう組み立てる
- ・自分の描きたいイラストを自由自在にランタンに描く

親子の絆に
心温まる瞬間



9

ランタン点灯式

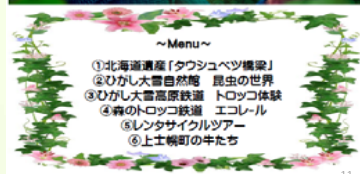


10

VR観光

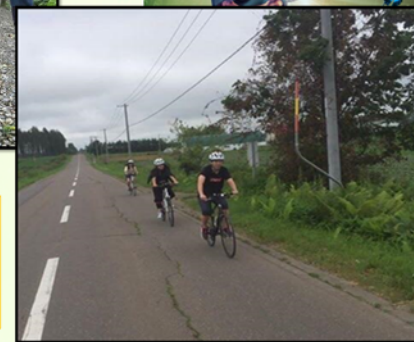
- ・上士幌町の魅力を疑似体験
- ・体験移住日誌を元に撮影場所決定
- ・360度カメラ『THETA』で撮影
- ・魅力溢れる映像作り

つつい手が
伸びてしまう！



・魅力溢れる映像作り

つつい手が
伸びてしまう！



VR体験 様子



13

インターンシップ

- ・夏のイベントについて
整理（課題など）
 - ・冬のイベントについて
（冬の上士幌町の強み・弱み）
- ↓
- ・ゼミへの**Output**
=ゼミのプロジェクトをまとめる
役目！



14

冬のイベントについて

- ・2月11日・12日開催！
（ウィンターバルーン）
- ・帯広駅からバスツアー
- ・ターゲットは
普段仕事で忙しい**女性**
- ・夏同様全てが体験もの



15

今後について



- ・パンフレットに ARを使用し、
新しい体験観光のパンフレットを作成！
- ・今までのものと新しい手法を掛け合わせ
新しいものに挑戦！

16

